



2024年2月開業予定 新サッカースタジアム「エディオンピースウィング広島」

PHOTOGRAPHER/UP-G 竹森 敬

C.COM

2024.Jan vol. 90

平和とより良き生活のために
広島県生活協同組合連合会

気候危機と人道危機・ そして被爆80年を考える

新年あけましておめでとうございます。激動の年を迎えました。

20世紀の最大の負の遺産は“気候危機”と“核の製造・拡散”といわれていますが、今世紀に入っても人類存亡の危機に直結する二つの負の遺産は解決の兆しが見えず、むしろコロナ禍やウクライナ戦争を機に大きく揺らぎ始めました。

気候危機は地球温暖化による生命の危機を意味します。地球温暖化は異常気象による熱波や豪雨災害など大規模自然災害の多発や生態系崩壊をもたらすばかりか、動物が媒介する感染症の拡大リスクを増幅させます。この度のコロナウイルスの感染拡大も温暖化や生態系の崩壊が背景にあると専門家は指摘しています。

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、2021年8月4日、産業革命前と比べた世界の平均気温上昇幅が2030年代初頭に1.5度に到達すると評価しました。そして「気候変動は人間の幸福と惑星の健康に対する脅威。住みやすく持続可能な将来を確保するための機会の窓が急速に閉じている」と、この10年の対策が人類や地球に数千年先まで影響すると訴えています。

このように気候危機は人類存亡の危機に直結してきました。日本は先進国としての責任を果たすため、化石燃料依存から脱却し、地域に根ざした循環型の再生可能エネルギーへの転換が急がれます。

一方平和をめぐる状況はさらに深刻です。ウクライナ戦争やガザ戦闘に見られるように、民間人への無差別攻撃による人道被害が拡大し、まさに人道危機が世界を席捲し始めました。そしてウクライナ戦争は世界の軍事費を一気に増強させ、NATOをはじめ世界の軍事的安全保障の枠組みが大きく揺らぎ始めました。スウェーデンの調査機関「V-Dem 研究所」の「民主主義レポート2022」によると、ロシア、中国、北朝鮮に代表される独裁的な体制の国・地域は2021年時点で30と前年から5つも増加しました。世界の人々が平均的に享受している民主主義レベルは冷戦終盤の1989年時点に逆戻りしているということです。このような時、紛争のリスクは最高に高まるのが歴史の教訓ゆえ、積極的な平和外交が世界の為政者に求められます。

戦後首相を務めた石橋湛山は「自ら侵略的軍備を保持していると声明した国はありません。すべての国が自分の国の軍備はただ自衛のためだと唱えてきました」「かくて自衛軍備だけしか持っていないはずの国々の間に、第一次世界戦争も第二次世界戦争も起こりました」と論考を発表しました（1957年）。互いが自衛のための「抑止力」だと主張して軍備を増強していけば、際限のない軍拡競争につながり、膨大な犠牲を生んだ二つの大戦の教訓を忘れてはなりません。

さて来年の2025年は広島に原子爆弾が投下されて80年になります。生協はこの間戦争も核兵器もない平和な世界をめざし、被爆者の皆さんをはじめ多くの市民団体と連帯してきました。地域社会の一員として活動している生協の平和活動の方向性は、これまでもこれからも“草の根平和活動”の輪を広げることだと考えます。そのためには一人ひとりの市民が平和について関心をもち主体的に関わり創っていく「つくる平和」が大切です。平和は、無関心でいると、真実を看る力が失われ抑止論の横行を許すことにつながるからです。

平和に関心をもってもらうきっかけの一つに時代を超え“感性”に訴えるアプローチがあると思います。感性で受け止めた感動や衝撃が今度は「もっと知りたい（理性）」「もっと行動したい（連帯）」へと進展し、少しずつ真実を看る目が養われ連帯の輪が広がると考えます。



広島県生活協同組合連合会
会長理事 岡村信秀

新年あけまして おめでとうございます。

令和6年の新春を迎え、広島県生活協同組合連合会及び各生活協同組合の皆様には、謹んでお慶びを申し上げます。

皆様には、日頃から生協活動を通じて、住民生活の安定と向上に多大な御貢献をいただきますとともに、消費者行政をはじめ、福祉、防災、平和、環境など様々な分野において、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

特に、昨年は生協法制定75周年に当たり、これまでの生協活動にご貢献のあった役員の方を讃え、本県から1名の方が厚生労働大臣表彰を受賞されますとともに、広島県においても3名の方に知事表彰を授与したところでございます。

また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が長期化する中、5月の「G7広島サミット」において、核兵器廃絶に向けたイベント等を開催されたと同っており、恒久平和に向けた皆様の活動は、大変意義深いものであったと考えております。

さて、本県では、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」において、将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現を基本理念に、県民の皆様がどこに住んでいても、夢や希望に「挑戦」できる社会を目指すこととしております。

その実現のためには、行政だけではなく、個人、企業・団体など全ての県民の皆様と、目指す姿を共有し、共感をいただきながら、連携・協働して取り組んでいくことが不可欠でございます。

そのような中、広島県生活協同組合連合会様におかれましては、平成30年に本県と締結した包括連携協定に基づき、本県行政の心強いパートナーとして、地域の諸課題の解決や地域社会の活性化に御貢献いただいております。

各生活協同組合の皆様におかれましても、生協法の理念に基づき、組合員の相互扶助や地域コミュニティの活性化等の取組を更に充実・強化され、地域の皆様の安全・安心な暮らしの確保に一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本年が、広島県生活協同組合連合会及び各生活協同組合の皆様にとって、更なる発展の年となりますことを祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。



広島県知事 湯崎英彦

「つくる平和」と大切にしたい“感性”

—「ぞうれっしゃがやってきた」にその糸口をつかむ—

広島県生活協同組合連合会
会長理事 岡村信秀

戦争と核兵器は平穏な日々の暮らしを土台から崩し、子どもの夢や希望を奪い去ります。平和だからこそ得られるかけがえのない日常と家族の絆。生協の平和活動の原点はまさにここに 있습니다。そして生協の平和活動において大切にしたい視点は、①生命の尊厳と人間らしく生きる権利は、すべての人間に共通する基本的価値、②1人1人の価値観や多様な考え方を認め合い、他人への配慮と人間としての優しさの心、③地域の中で、思想信条を乗り越え、多様な個人や団体のネットワーク的連帯の3つの軸です。

価値観や行動が多様化している現段階、戦争や核兵器から開放され、安心してらせる平和な社会の実現に向けては、一人ひとりの市民が創っていく「つくる平和」が大切です。つくる平和の最大の障壁は無関心といわれています。SNSの時代、自分にとって有益な情報を効率よく収集することができるようになりましたが、同時に、自分好みの情報空間の中に安住することが常態化し、自分と異なる意見に対して無関心となる傾向にあるのも事実です。

時代を超え平和への関心を高めていくためには、“人の心を惹きつけ揺れ動かす感性”に注目することも大切だと考えます。昨年の“ピースアクション in ヒロシマ・虹のひろば”で「ぞうれっしゃがやってきた」が歌われました（詳細は前（89）号参照）。聞いた人の感想文の中で「ぞうれっしゃの合唱は初めて聞きました。涙が溢れるのを堪えようとしたのですが、やはり無理でした」「ぞうれっしゃの歌に感銘を受けました。特に子どもたちのはつらつとした歌声が素晴らしかったです。いつまでも、子どもたちが元気で明るくいられる世の中であってほしいと感じました」。合唱に参加した人からは「何回も練習を重ねる中で、子どもの成長や参加者の一体感が生まれ、貴重な経験になりました。平和を願いこれからも歌っていきます」など多数の声いただきました。また合唱に参加した人の中で合唱組曲の舞台となった名古屋の東山動

物園を訪ねてた親子が2家族もいました。この話を聞いたとき深い感銘を受けたと同時に、“ぞう”には時代を超えて“人の心を惹きつけ感性を揺れ動かすもの”を内包していると確信しました。

実は昨年の虹のひろばでは松井一實広島市長や日本生協連の嶋田祐之専務理事、そして私も一緒に“ぞう”を歌いました。“ぞう”は「平和の尊さ」「人や動物をいつくしむ心」「希望」「人々の絆の大切さ」など歌を通じて実感する魅力的な合唱組曲でもありません。歌い終えた松井市長は「平和な世界の実現に向けて希望の光を見た思いであり、大きな勇気と感動をいただいた」と、また嶋田専務は「時代、そして世代を超えて、悲しみや喜び、願いなどの気持ちが共鳴し合う感覚です」と述べています。

“人の心を惹きつけ揺れ動かす感性”の延長線上に“被爆ピアノコンサート”があります。今後は“ぞう”も含め“感性”に訴える企画をもっと増やしていくのも時代の要請だと考えます。



2023ピースアクション in ヒロシマ 「ぞうれっしゃがやってきた」 合唱風景

よりフラットで、より自然体な 「ひろがりの創り方」「つながりの創り方」 今後の平和の取り組み

あけましておめでとうございます。
昨年は、4年ぶりに県外からも参加頂き、「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」を開催することができました。平和を脅かす事態が現実のものとなり、核兵器使用の脅威が高まるなか、被爆地である広島と長崎で拡がりある大きな集いを開催できたことは、これまでにまして意義深いことでした。

1978年にピースアクションの取り組みを始めてから、昨年で45年となりました。生活協同組合は、暮らし、平和、食の安全、環境問題など、様々な社会課題に関する取り組みをすすめてきましたが、とりわけ平和の取り組みは重要視し、途切れることなく、時代ごとに内容も変化させながら継続して取り組むことが出来ました。なぜなら、平和こそが一人ひとりが人間らしく、健やかにくらしていく上での大前提だからです。

一方、戦争経験者が高齢化し、戦争を知らない世代が国民の大部分を占めるようになりました。だからこそ私たちが、これからを担う世代に引き継いでいく為にも、今後もピースアクションの取り組みを、知恵を出しあいながら進化させていく事が重要です。

8月5日の虹のひろばでは、子どもから大人まで総勢約100人の虹のひろば合唱団による「ぞうれっしゃがやってきた」の合唱を行いました。この合唱は以前にも取り組んだという事ですが、今回の検討段階では、人数を集められるか、練習の機会はつくれるかなど、



<2023 ピースアクション in ヒロシマで
「ぞうれっしゃがやってきた」を合唱>

色々な不安もありましたが、実行委員の皆さまの了承を頂きチャレンジすることが決まりました。私も参加させて頂くことにしましたが、始めは少しの義務感がきっかけでした。皆さんは何度も練習会を行うという事でしたが、私は当日本番前の最終練習しか日程がとれませんでしたの



日本生活協同組合連合会
代表理事統括専務 嶋田 裕之

で、ご迷惑をおかけしないように、頂いた楽譜と録音をもとに、何度も聞いて歌う練習をしました。練習を重ねて歌詞が頭に入ってくるほどに、心に響き渡り、感情が高まってきました。

さらに、当日本番前の練習で、子供達の歌声を聞いたとたん、更に強く心を打たれ「あ、これなんだ」と思いました。老若男女と一緒に合唱するなかで、ぞうれっしゃの詩と曲が、リアルに当時の様子を再現してくれます。時代、そして世代を超えて、悲しみや喜び、願いなどの気持ちが共鳴しあう感覚です。参加させて頂いて心から良かったと思えました。

平和について、真正面から学ぶことも大切ですが、今回のぞうれっしゃの取り組みは、今後の平和の取り組みを進めるうえで、よりフラットで、より自然体な「ひろがりの創り方」「つながりの創り方」という点で、多くのヒントをくれたように思います。

すでに今年のピースアクションの実行委員会がスタートしています。そして来年には被爆80年という節目を迎えます。今年、そして来年にむけて、平和の心を育む活動を、全国のみなさまとともに、より一層ひろげていければと思います。

末筆ながら皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈りし、平和への願いをこめて、新年のご挨拶とさせていただきます。

元気な時から看取りまで生協にまかせんさい!!



一看多機・定巡・サロン(かん・てい・ろん)を拠点に
コープあんしんケアシステムづくりのチャレンジ進行中

広島中央保健生活協同組合

「あんしんセンターコープ五日市」の建設に邁進中

広島中央保健生協ではコープ五日市診療所に隣接して、今年5月オープン予定で看護小規模多機能(かんたき)コープ五日市、定期巡回随時対応(ていじゅん)いつかいち24、地域交流スペースサロン「えにし(縁)」を合築した「あんしんセンター コープ五日市」(着工2023年10月1日、竣工予定24年3月15日)の建設に邁進しています。生協の発展を担ってこられた組合員の高齢化著しい状況に対応して、組合員の元気な時から最期まで住み慣れた地域で健やかに過ごせるよう看護介護専門職がワンチームでお支えする「コープあんしんケアシステム」づくりをエリアごとに進めようとしています。



「オーダーメイド」の介護の提携目指して

「あんしんセンター」の建設は組合員にとって大きな意義があります。全ての人にやがて看取りの時間が訪れることは平等です。現在、介護をめぐるのはヤングケアラーやビジネスケアラーなどご家族の負担が社会問題になっています。「あんしんセンター」の「かんたき」「ていじゅん」は自宅での介護をお支えし、最期、看取りまで関わります。近隣クリニックと連携し、看護師や介護職が自宅でのご家族の負担を減らし仕事しながらでも介護を担っていけることを目指します。「かんたき」は「泊り(ショートステイ)、通い(デイサービス)、訪問看護・訪問介護を通じて一人ひとりの利用者の状況に合わせた「オーダーメイド」のケアを提供します。スタッフは研修など準備を進めています。

「10の基本ケア」と「あんしんケアシステム」を両輪で

この介護を可能にするのが「10の基本ケア」と「サロン」です。「10の基本ケア」は生活リハビリを通じて利用者のできることを増やし自宅で生活できるよう尊厳を守る自立支援ケアです。サロンでは元気な時から職員が関わり組合員一人ひとりに介護が必要になった時に「顔なじみ」の職員がケアします。組合員一人ひとりを「面」で支える「あんしんケアシステム」の拠点となる「あんしんセンター」を組合員のお住まいの地域に展開できるようオープンに向け地域訪問など頑張っています。

あんしんセンターコープ五日市
完成予想図



広島中央保健生活協同組合
常務理事 大野 正喜



誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けることができる

地域づくりをめざして! 生協ひろしま福祉事業部



生協ひろしまの福祉事業は、“誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくり”をめざし、居宅介護支援、訪問介護、通所介護、小規模多機能、認知症高齢者グループホーム、福祉用具、障害者（児）相談支援、子育て支援の8つの事業を県内17拠点で行っています。

2024中期計画の中で、事業構造改革に取り組めます。
2023年10月の理事会で「生協ひろしま福祉事業の将来構想、及び事業計画の方向性について」提案し、「①包括報酬型の在宅サービスを柱とする多機能型事業拠点をつくること。②誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けることができる地域づくりに取り組むこと。」が確認されました。県内17拠点を多機能型事業拠点の候補エリアに位置づけ、①通所介護（デイサービス）、小規模多機能、認知症高齢者グループホームの拠点施設がある広島市西区観音・田方エリアと②同じ事務所（福祉廿日市事務所）で、居宅介護支援、訪問介護、訪問看護（広島中央保健生協）の3つの事業を行っている廿日市市大野エリアを優先エリアとし、多機能型事業拠点づくりに取り組んでいます。

広島市西区観音・田方エリアについては、同エリアの事業所長4名と隣接するエリアの事業所長5名、事業部職員6名の合計15名が毎月PJを行い、「利用者を中心においたチームケア」について論議と実践を重ねています。2023年10月末現在、観音・田方エリア5事業所の事業状況は2022年対比、収入113.1%、収益390.5%の改善となっています。

廿日市市大野エリアの拠点事業所となる福祉廿日市事務所は、生協ひろしまが運営している居宅介護支援、訪問介護と広島中央保健生協が運営している訪問看護の3つ事業を同一フロアで行っています。異なる法人の職員が、利用者の支援について、日常的に意見交流を行い、その方に必要なサービスをリアルタイムに提供している状況は、質の高い連携（利用者を中心においたチームケア）が実践できている証と感じています。ランチタイムになると、食堂からお互いの職員の和気藹々と話す声が聞こえてきます。時には、手作り料理がつかられることもあり、まさしく“同じ釜の飯を食う仲間”としてしっかり、連携体制が築かれています。この法人間の事業連携と職員間の繋がりが、この地域を支える多機能型事業拠点の基盤になることを確信しています。

生協ひろしまと広島中央保健生協は同エリア内で連携した取り組みを進めています。

2024年3月に福祉廿日市事務所では、4つ目の事業となる定期巡回・随時対応型訪問介護看護（以下、定期巡回サービス）をスタートします。定期巡回サービスは、①利用者と24時間365日つながる体制をとり、②自宅に定期訪問し、その方に必要な介護と看護の支援を行います。③また、急に体調を崩された時などは、緊急対応（随時対応）を行うサービスです。生協ひろしまでは初めての事業のため、手探りのことが多く、1つ1つの課題を慎重にすすめています。既に事業をされている広島中央保健生協、広島医療生協には、この間多くのご支援をいただきました。本当にありがとうございます。

また、福祉廿日市事務所は生協ひろしま大野事務所（本部）の敷地内にあり、宅配、店舗、課題推進、くらし応援、地域連携等の各事業・活動との連携が取りやすい環境にあります。生協ひろしまがもつ多様なサービスを有効的につなぎ、地域の諸団体、関係機関（行政等）と連携・連帯していく中、“誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けることができる地域づくりを組織全体で取り組んでまいります。

生協ひろしま 福祉事業部
統括部長 島本敏彦



(左) から
生協ひろしま福祉事業部 島本統括部長
訪問介護サービス廿日市 荘川所長
居宅介護支援事業・廿日市 白井所長
広島中央保健訪問介護ステーションコープはつかいち 船倉所長

「けんこうチャレンジ2023」の 取り組みについて



2015年からはじまった、けんこうチャレンジとはチャレンジ17コースの中から自分に合ったコースを選択し、記録をつけていきます。大人、子ども向けがあり、この企画を通じて、ご自身、ご家族の生活習慣を見直し、健康づくりの習慣を身につけることとしています。

2023年度は7月～10月の30日間もしくは60日間をチャレンジ期間としました。参加人数は4,500人(速報値)となり多くの方が参加をされました。

また、下記、報告は2つの生協から取り組んだ事例になります。

広島中央保健生協・安田女子大学共催企画～すこしお料理教室～

9月30日に広島市西区いきいきプラザで『すこしお料理教室』を開催しました。安田女子大学の2年生5名がこの料理教室の企画を担当し講師をしました。牛乳やお酢などを使い簡単に作れて各料理に減塩の工夫がされたメニューで参加者19人の皆さんと楽しい時間を過ごしました。実習試食後に減塩についての勉強会もしました。参加者から「今日食べた料理が減塩になっているのに美味しかった。」「減塩の大切さが分かった。」「自分でも出来そうなので生活に取り組みたい。」「またこの様な料理教室があれば参加したい」などのご意見を頂きました。

(メニューはご飯、白身魚の甘酢あんかけ、切り干し大根のごま和え、減塩味噌、ミルク寒天)

今後は、田方支部が進めている防災学習のひとつである「防災食」について共同で行う予定です。これからも連携しながら、地域の健康づくり推進に取り組んでいきたいと思えます。

(広島中央保健生活協同組合)



けんこうチャレンジは保健体育必須の生活習慣病のとりくみにピッタリ!!

福山医療生協では毎年、福山市教育委員会を通じてパンフレット見本をすべての小中学校に届けているので、パンフレットを見て小学校や中学校から数校の依頼があります。

今年度初めてお申し込みいただいたM中学校の先生からは、2年生の保健体育で生活習慣病が必須科目になっていることを伺いました。パンフレットを見た時に、「ピッタリだと思って申し込みました」「こういうのをするのが大好きな子どもたちなんです!」と、大変喜ばれました。

今回チャレンジしてくれたのは、3年生86名でした。今年度の文化祭で、自分たちが行ったコースと結果をまとめてポスター展示も行い、学習の一環としてとりくまれたことをお聞きし、来年度から中学校にも広がっていいのではないかと期待が膨らんでいます。

(福山医療生活協同組合)

第50回広島県生協大会開催及び広島県知事表彰報告

誰もが安心してらせる持続可能な地域コミュニティの実現と平和な世界をめざして

広島県生協連は、10月20日（金）広島国際会議場にて、第50回広島県生協大会を開催しました。今年度は実参加とし、会員生協役員職員、友誼団体等関係団体70名が参加しました。岡村信秀会長理事より、本日も講演いただくテーマ、環境問題、再生可能エネルギーについて、また、再来年被爆80年を迎えるにあたり、平和について被爆者の想いを継承し、楽しく暮らせる社会を築きましようという主旨の挨拶がありました。続いて、来賓の広島県環境県民局 新宅局長からご挨拶をいただきました。局長から地域貢献活動に対する感謝と、生協組員相互の強化、地域に密着した活動など期待の言葉が述べられました。

本年は、消費生活協同組合法の制定75周年を記念し、広島県知事表彰があり、長年にわたり生活協同組合の役員として組合の発展及び地域における生活の向上に寄与し、その功績をたたえて（広島県学校生協 難波隆宏理事長、広島中央保健生協 福山慎二理事長（ご欠席）、広島医療生協 坂本裕理事長）が受賞されました。また、10月23日に厚生労働大臣表彰を受賞される生活協同組合ひろしま 宗本干城理事長をご紹介しました。



右から新宅局長と知事表彰者 難波理事長、坂本理事長、厚生労働大臣表彰者宗本理事長

講演は、日本生活協同組合連合会サステナビリティ推進グループ新良貴泰夫様より「生協2030環境・サステナビリティ政策」と題して、現状の温暖化、生協の取り組み、政策の概要、コープサステナビリティアクションなど事例を含めてご講演いただきました。



日本生活協同組合連合会 新良貴氏

続く、特別講演では島根県邑南町役場地域みらい課、藤田浩司様より「再生可能エネルギーで輝く『おおなん成長戦略』の目指すもの」と題して、邑南町の現状、邑南町が脱炭素先行地域に選定されるまでの経過や公共施設・民間住宅・農業と発電の両立の事例や脱炭素チャレンジ高校（島根県立矢上高校）との取り組みなど、邑南町が目指すまちづくりについてご講演いただき今後の脱炭素の取り組みに向けて大変参考になるご講演となりました。



藤田氏 島根県邑南町地域みらい課

（文責：広島県生協連 塩野猛）

広島県へ要請（環境県民局長懇談）を行いました

広島県生協連は、11月9日、広島県庁環境県民局長室にて広島県に対して要請を行いました。

広島県生協連は毎年、広島県に対して政策的な要請と行動を行っています。今年は地域福祉・介護・地域包括ケア・医療、消費者の暮らしの安全安心を高める消費者行政、大規模災害に対する連携強化（災害対策・防災）、核兵器廃絶に向けた平和活動の推進、県民の暮らしの安全・安心の向上など6分野について要請しました。

広島県より新宅郁子環境県民局長はじめ福田幸作県民生活担当部長、岡田和美消費生活課長、渡邊哲也環境政策課長他、各部署から11名の方にご出席いただき、広島県生協連からは、岡村信秀会長理事、難波隆宏副会長理事他、8名が出席しました。

最初に、岡村会長より新宅局長へ要請書の受け渡しを行いました。要請書を受けて新宅局長より、日頃から、生協活動を通じて、県民生活の安定と向上に多大な御貢献をいただくとともに、本県の消費者行政をはじめ、医療、福祉、防災、平和など、多岐にわたる分野において、感謝を込めたご挨拶をいただきました。

双方の出席者の自己紹介に続いて、田中常務理事より地域福祉・

介護・地域包括ケア・医療関連、本浦部長より防災関連、平和関連及び県民の暮らしの安全・安心の要請項目について趣旨説明をおこないました。

広島県からは、要請項目に対して、現在の状況や課題、国への働きかけを行うこと等、担当の方々から口頭で丁寧な回答をいただきました。その後、情報交換（懇談）では、再生可能エネルギーや地域密着サービス、消費者の食の安全などについて意見交換をおこないました。最後に、難波副会長理事よりお礼を述べ、今後包括的連携協定に基づき連携を強化していくことを確認して、懇談を終了しました。

（文責：広島県生協連 塩野猛）



【要請書の受け渡し 右が新宅局長、左が岡村会長】



【広島県の出席者】



【生協連の出席者】

広島県 出席者（11名）
新宅郁子環境県民局長、福田幸作県民生活担当部長、岡田和美消費生活課長、渡邊哲也環境政策課長、危機管理課参事、平和推進プロジェクト・チーム担当課長、医療介護基盤課長、医療介護保険課長、介護基盤支援担当監、新型コロナウイルス感染症対策担当課長、消費生活課事務局
広島県生協連 出席者（8名）
岡村信秀会長理事、難波隆宏副会長理事（広島県学校生協理事長）、杉田和正常務理事（広島県労働者共済生協専務理事）、長谷川英男常務理事（広島修道大学生協専務理事）、田中敬子常務理事（広島中央保健生協専務理事）、箱崎弘常務理事（日立造船因島生協専務理事）、重信均常務理事（生協ひろしま常勤理事）、本浦孝典部長

2023年度県連役員研修(山形県)報告

2022年新春のつどいにおいて、「庄内まちづくり協同組合 虹」前理事長の松本政裕氏より、「いつまでも住み続けられるまちづくりをめざして～異業種の法人で構成する事業協同組合～」をテーマにご講演をお聞きしました。この度、庄内まちづくり協同組合『虹』に出向き、直接、現地の取り組みを学ぶことにより安心して住み続けられる地域づくりに向けてさらに深めるため、役員研修をおこないました。

山形県生協連 会長理事（共立社 理事長）安達忠士理事長様、庄内まちづくり協同組合 虹 理事長（医療生協やまがた専務理事）黒子和彦理事長様をはじめ多くの方にお世話になりました。

日程：2023年10月26日（木）～28日（土）

目的：(1) 協同の力で安心して住み続けられる地域づくりの実践を学ぶ。

(2) 山形県生協連（生協共立社）の取組に学ぶ。

(3) 協同組合の精神、知見を広める。（上杉鷹山に学ぶ）

視察先：庄内まちづくり協同組合「虹」

視察、経緯・取組レクチャー及び周辺施設見学（協立病院、付属クリニック、附属保育園、歯科、小規模多機能施設等）生活協同組合共立社、組合員活動の報告、鶴岡協同の家こびあ視察、桜田センター（建設中11月23日オープン予定）見学、上杉博物館の見学など



庄内まちづくり虹の家 こころ

内容：庄内まちづくり協同組合 虹では、異業種の壁を乗り越えて、民主的に共同の事業を行い、個別の事業者だけでは実現しきれない諸要求を、協力、共同することによって解決を図り、「いつまでも安心して住み続けられる地域づくり」をすすめている実践を見ることができました。常に組合員の暮らしや、地域から寄せられる声に基づき対応すること。その実現に向けて、自組織の枠に留まらず、他の協同組織と積極的に協力・協同することの大切さを学びました。

生協共立社では、設立の経緯、共立社の生協運動がめざすもの、組合員の願いを実現するための手段としての事業、運動、他組織（異業種）との連携、新たな挑戦等、「いつまでも安心して住み続けられるまちづくり」をめざして、地域に根差した協同組合間との連携や取り組みをすすめている実践を学びました。今後とも、協同組合の基本理念である相互扶助の精神のもと、この度学ばせていただいたことを生かし、地域貢献の取り組みを推進していきます。



視察研修参加者

（文責：広島県生協連 福島守）

以上

消費者のつどい2023を開催しました

広島県消費者団体連絡協議会

広島県生協連が事務局を務める広島県消費者団体連絡協議会（以下、広島県消団連）は、11月15日（水）にサテライトキャンパスひろしまにおいて、広島県、広島県金融広報委員会と共催で「消費者のつどい2023」を開催しました。会場のサテライトキャンパスひろしまに約100名の方が集まりました。

はじめに、広島県県民生活部長福田幸作様と広島県消団連会長弓場美代様より主催者挨拶がありました。

続いて広島県消団連構成団体の活動報告は、JA広島県女性組織協議会の池野芳子副会長より「2023年度活動報告」があり、NPO法人消費者ネット広島渡辺とおる事務局長より、「活動報告とこれからの課題」について報告がありました。



挨拶する福田幸作部長



挨拶する弓場会長

第2部は広島県金融広報委員会事務局長伊藤雄大様の挨拶のあと、記念講演として、生活経済ジャーナリストでありファイナンシャル・プランナーのいちのせかつみ氏を講師に、「笑う門にはカネ来たる！～転ばぬ先の知恵を教えます～」と題してご講演いただきました。

人生100年時代、健康や人間関係、趣味や生きがい等、大切なものにはお金をかけたいと誰もが思う中で、悪徳商法からお金を守るにはどうすればいいのか、事例や対策を軽快な語り口でお話くださいました。売買契約やクーリングオフの落とし穴についてクイズを交えて知ることができ、参加者は楽しみながら講演を聞き入っていました。



笑いに包まれた会場の様子



伊藤雄大事務局長



講演するいちのせ氏

（文責：広島県生協連 上原恵美子）

広島県からのお知らせ あなたも消防団員になり、暮らし・地域を守りませんか!

みなさんは消防団をご存じですか?名前は知っていても、実際の活動について知っている人はそんなに多くはないのかも。そんな消防団の活動、入団資格・入団方法についてお知らせします。

消防団の活動

林野火災などでの消火活動や災害時の救助活動のほか、風水害の際には、河川水位の警戒や土のうづくりなどを行います。

また平常時には、訓練のほかに、防火・防災のイベント等を通して地域住民と触れ合ったり、救命講習会の指導役をすることもあります。

意外と知られていませんが、年額報酬や災害活動時の出勤手当などの支給や、被服の貸与などもあります。



入団資格・入団方法



お住まい又は勤務する区域の消防団に入団でき、資格は18歳以上というだけ。女性もちろん、学生の方も入団できます。

他のお仕事をしながら入団することができるので、入団のハードルは意外と高くないんです。詳しくは、当該市町の消防団窓口にお問い合わせください。



詳しくはQRコードまたは「広島県 消防団員募集」で検索!



適格消費者団体NPO法人 消費者ネット広島からのお知らせ

「消費者トラブルの手口を知りましょう」②⑥

消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

指示どおり操作しただけで、いつの間にか借金苦に!? 副業の勧誘に注意

相談内容

副業をネット検索し、「スタンプ送信だけで日給2万円」と記載されていたので登録した。後日、担当者から電話があり、「もっと稼げる」と、70万円のサポートプランを勧められた。「お金がない」と言うと、「融資を受けてはどうか」と提案され、遠隔操作アプリの画面共有機能を使って、スマートフォンの画面が共有された状態で言われるまま操作を行い、借金をして事業者へ振り込んだ。しかし、副業の内容が理解できなかったので解約したものの親に借金を返してもらうことになり迷惑をかけた。また、借金するときに画像送信した免許証やカードの悪用が心配だ。
(20歳代 男性)

アドバイス

相談者には、知られてしまった個人情報が悪用される恐れがあるため、信用情報機関の本人申告制度の利用を検討するよう伝えました。また、消費者金融に登録したIDやパスワードが事業者にも知られている恐れがあるので、すぐにパスワードを変更するよう助言しました。

- 「簡単に稼げる」ことを強調する広告には注意しましょう
「稼ぐためのサポートをする」と言われて、広告にはなかった高額なサポート契約を勧誘されるケースもあります。勧誘トークをうのみにせず、冷静によく考えましょう。
- 遠隔操作アプリは安易にインストールしないようにしましょう
画面共有した場合、事業者は画面を見ながらお金の借り方について細かく指示を出すので冷静に考える時間を持つことができません。また、遠隔操作アプリを利用したり、画面共有をした状態で個人情報の登録やパスワード入力をする、事業者が悪用される可能性もあります。
- 消費生活相談窓口は身近な味方です!
解約できないときや、疑問があるときは消費者ホットライン(☎188)に相談してください。

(ここに紹介する相談事例は一つの参考例です。同じような商品・サービスに関するトラブルであっても、個々の契約などの状況などが異なれば、解決内容も違ってきます。)

(広島県生活センター発行 暮らしのフレッシュ便 令和5年10月号より)



広島県消防学校 川村 道典 校長

1964年生まれ 島根県美郷町出身

大学入学を機に広島へ

大学では地理学を専攻し、地震による変動地形について研究
このときの学びが現在に活かされる。

大学卒業後、平成元年広島県庁入庁

平成22年から消費生活課、同26年から消防保安課、
令和元年から三次市勤務を経て同4年から現職

災害のない年でありますように

広島県生協連とのご縁

現在、広島県と広島県生協連とは様々な場面で連携させていただいています。私自身も約10年前、県消費生活課勤務の折に県生協連と関わらせていただき、「安心して暮らし続けられる地域社会の実現」を目指す県生協連の取組に大いに勉強させていただきました。

当時は、平成23年に東日本大震災が発生し、広島県では防災体制の更なる強化が急務でしたが、県生協連から「災害時における物資調達協定」のご提案をいただき、平成24年に県と県生協連との間で協定を締結させていただきました。締結式の場面は今でもはっきりと覚えています。出席された富田巖前会長は、体調が優れなかったにもかかわらず、「生協そのものが助け合いの活動。今回の協定を機にさらに県民の暮らしの向上のために前進していきたい。」と力強く語られました。その姿に、県職員としても頑張らなければと強く感銘を受けました。

この協定が活かされたのが、その後に発生した平成26年の広島市土砂災害と平成30年の西日本豪雨災害です。県生協連の方々は県庁の災害対策本部に駆けつけていただき、救援物資の調達と配送に尽力していただきました。物流調整は県職員には不慣れな分野です。まさに県生協連の実力を発揮していただきました。

災害に強い県づくりには、生協のように地域に根ざした組織との連携が不可欠です。県民の安全安心を守るため、引き続きご協力をいただきたいと思います。

広島県消防学校での教育

消防は災害の最前線に立つ仕事です。自身を守れず人に助けることはできません。ですから消防学校では、特に自らの安全管理については厳しく指導しています。

また、火事でも救急でも自然災害でも、同じものは決してありません。どんな状況にも対応できるよう、学生には「学び続けることの大切さ」を伝えています。

消防の課題の一つに、女性の構成員が少ないことが挙げられます。今年度の新規採用の消防職員のうち、女性は1割未満でした。消防にも女性が活躍できる場面はたくさんあります。それなりの体力や精神力が求められますが、やりがいもある仕事です。是非もっと多くの女性の方に目指していただきたいものです。

災害のない平和な2024年に

日本は大雨や地震が起こりやすい地域です。しかし、平素から身の回りの災害リスクを知り、備えていれば、自分を守るだけでなく、周りの人や地域を守ることもつながります。

自然災害だけでなく、これから春にかけては火事が起こりやすい時期です。普段の生活での火の始末にも気をつけたいですね。

「備えあれば憂いなし」を実践して、2024年をよい年にしていだければと思います。

また、そうした平穏な暮らしのためにも、世界が平和であるよう願いたいと思います。



広島県消防学校は、消防組織法に基づき消防職員と消防団員の教育訓練を行う機関です。新採の消防職員に基礎を教える初任教育のほか、より専門的な専科教育、特別教育、幹部教育等を行っています。